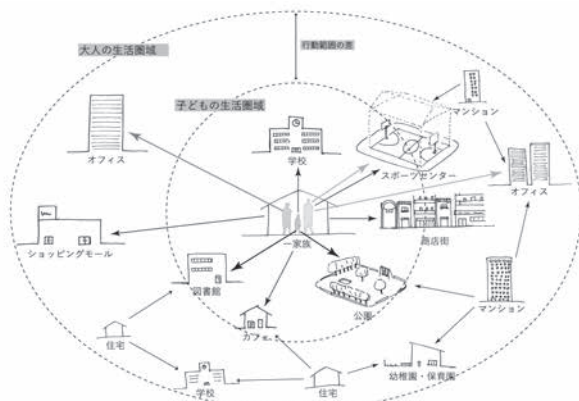
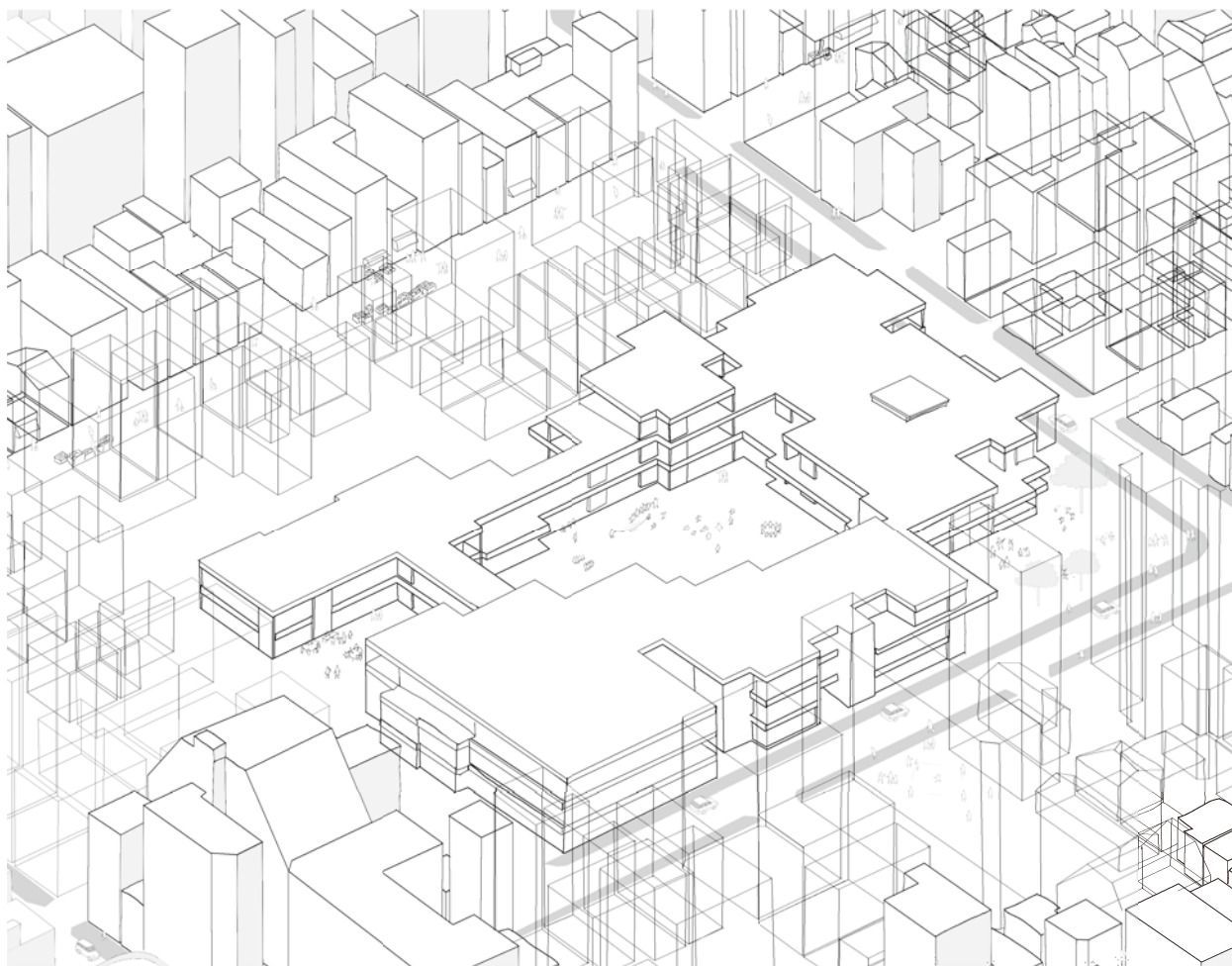
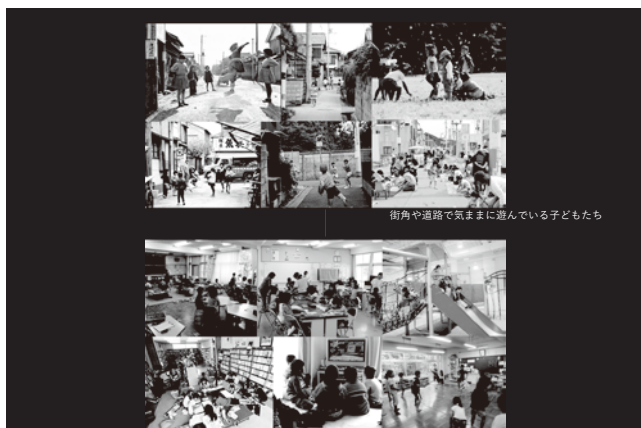


子どもたちは子どもと先生との社会の中で育てばいいのだろうか
決められた科目や授業内容に即して学んでいくだけでいいのだろうか
家族の形や社会の形の変化に知らず知らずの内に振り回されているのは子どもたちなのだ
東東京に残された復興小+小公園の用地を都市のなかにおける面的賑わいの場として
子どもたちが自由にまちで育つことができるような場所を作る



住む場所と働く場所が分かれ、共働き世帯が増加したことにより、まちには子どもたちだけが取り残される状況が起きている。

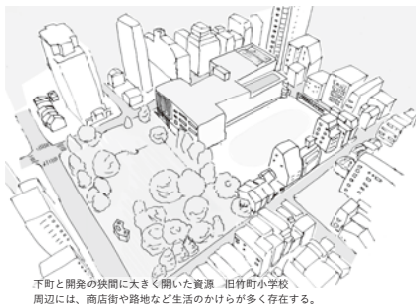
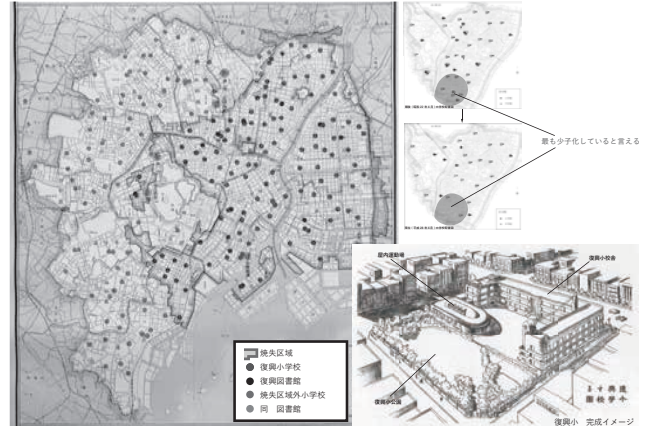


そして、宿題や用意された遊びを思い思いに楽しむ子どもたち

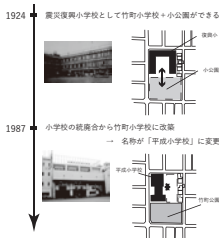
まちの中に散らばっている活動の様々が、子どもにとっては学び、そして遊びの宝庫であるはずだ。
 そうしたまちの活動を連続しながら息づく子どものための居場所を作る。



地域の核としての小学校と小公園を都市の中に散りばめた。象徴として、中心として、利用されていくことを見込んでいた



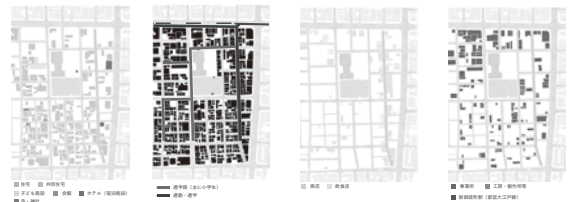
竹町小学校と竹町公園の変遷



千町と開発の狭間に大きく開いた資源。旧竹町小学校
 周辺には、商店街や路地など生活のかけらが多く存在する。

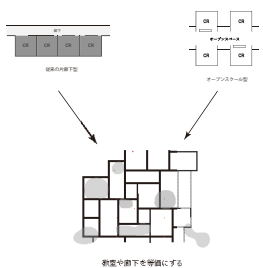


復興事業が残したまちの痕跡と今の暮らしが重なり合っている

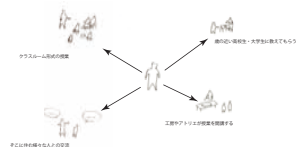


(1) 子どもたちが気ままに活動していける環境を作っていく

(2) 人との出会い、まちとの出会いが子どもたちを形作る

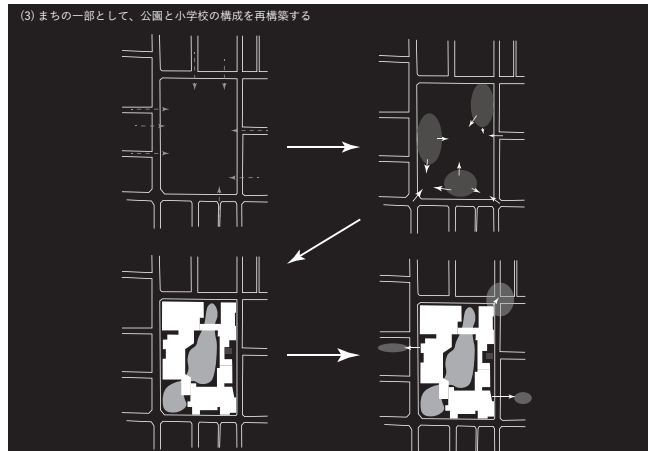


緩やかに空間を定義する家と壁によってできる場は、子ども
 たちに自由な学びを促す



カリキュラムは学校をまちへと開くことで、教職員だけでなく
 地域の人々が子どもたちの最も身近な先生となる。

(3) まちの一部として、公園と小学校の構成を再構築する





2 階平面図





200112



200116



200125



200128



最終講評会 映像

Special thanks:

Diploma Members

Lab members(B1&M1), Friend(Saori Tsuchiya)

3th(Yuki Higashino, Syuya Yanagisawa, Tessy)

2th(Hong Seungwoo, Ayaka Ito, Chinatsu Fujisawa)

1th(Kotori Matsushita)

